

表6 Cox 比例ハザード回帰分析 (趣味種類 年齢のみ調整)

性別		n	p 値	HR	95%信頼区間		
					下限	上限	
男性	スポーツ的活動	あり	1998				
		なし	2616	0.012	1.62	1.11	2.36 *
	文化的活動	あり	1477				
		なし	3137	0.005	1.82	1.20	2.77 **
	音楽的活動	あり	874				
		なし	3740	0.038	1.84	1.04	3.26 *
	創作的活動	あり	911				
		なし	3703	0.053	1.67	0.99	2.82
	園芸的活動	あり	2816				
		なし	1798	0.000	2.17	1.54	3.05 ***
	テレビ・ラジオ	あり	2924				
		なし	1690	0.002	1.71	1.22	2.39 **
観光的活動	あり	2522					
	なし	2092	0.000	2.17	1.49	3.15 ***	
投資ギャンブル	あり	991					
	なし	3623	0.044	1.74	1.02	2.99 *	
女性							
女性	スポーツ的活動	あり	1658				
		なし	3448	0.000	2.14	1.40	3.28 ***
	文化的活動	あり	993				
		なし	4113	0.968	1.01	0.68	1.50
	音楽的活動	あり	1179				
		なし	3927	0.107	1.44	0.92	2.23
	創作的活動	あり	973				
		なし	4133	0.089	1.53	0.94	2.49
	園芸的活動	あり	2900				
		なし	2206	0.000	1.88	1.39	2.53 ***
	テレビ・ラジオ	あり	2922				
		なし	2184	0.073	1.30	0.98	1.73
観光的活動	あり	2478					
	なし	2628	0.001	1.75	1.24	2.48 **	
投資ギャンブル	あり	265					
	なし	4841	0.793	1.13	0.46	2.75	

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

分担研究報告書

ボランティアリーダー研修の概要

主任研究者 竹田徳則 星城大学リハビリテーション学部 教授

研究協力者 太田 崇 介護老人保健施設ゆうゆうの里作業療法士

要旨

サロンのボランティアを対象に、今後求められる対人交流の促進法やプログラム立案の考え方とその展開法などの知識と技術を習得することを目的に研修会を行った。その結果、サロン開始後、研修参加者群は研修非参加者群に比べて参加者とのコミュニケーション、プログラム立案、プログラム展開それぞれの項目において、自信がついたと自己評価している者の割合が高かった。一方、ボランティアとしての今後の継続自信では2群間での差はなく、研修に加えて行政や研究者らの支援体制が今後も必要と考えられた。これからの研修内容では、対象者の理解と援助法、技術の習得、サロンの視覚的モデル把握のための町外他施設見学を希望する者の割合が高かった。

A. ボランティア研修目的

本研修の目的は、「憩いのサロン」のボランティアが、サロンの運営に今後求められる対人交流の促進法やプログラム立案の考え方とその展開法などの基本的知識と技術を習得することである。そして、サロンでそれらを活用することからプログラムの円滑な進行に役立てることである。

B. ボランティアリーダー研修内容

ボランティアリーダー研修内容の概要と研修参加者数を表1に示した。内容は、講義と演習形式とし作業療法士2名が講師を務めた。第1回の「高齢者の心身の変化」・「憩いのサロンボランティアの役割」については全ボランティアの受講を可とした。

表1 平成19年度「憩いのサロン」ボランティアリーダー研修概要

会場	武豊町中央公民館ならびに武豊町「ゆめたろうプラザ」	
対象	各サロンから選出されたボランティア	
実施日	研修内容	参加者
第1回 10月26日	「高齢者の心身の変化」「憩いのサロンボランティアの役割」（講義） 1. 高齢者の心身の変化 2. 高齢者の生活 3. 介護予防 4. ボランティアの役割	46名
第2回 11月2日	「サロンにおける集団の活用と対人交流促進について」（講義） 1. 集団の活用について a) 集団の理解 b) 集団活用の必要性 c) 集団の分類 d) 集団の中の個 2. 対人交流の促進について、 a) リラクゼーションの重要性 b) 共感するためのポイント	24名

第3回 11月8日	「サロンにおける集団の活用と対人交流促進について（演習）」 1. グループワーク a) 紹介場面（自己紹介）対人緊張と場面緊張の緩和 b) 活動の話題 c) 共通の話題 d) 回想を用いて具体例を紹介	19名
第4回 11月16日	「サロンでのプログラム立案と展開について」（講義・演習） 1. プログラム立案 2. プログラム展開のポイントと留意点 3. プログラム展開例	22名
第5回 11月20日	「サロンでのプログラム展開例」（演習 大足サロン会場）	21名

B. アンケート実施

研修から3ヵ月後、ボランティアを対象に自記式質問紙法による調査を行った。内容は、ボランティアリーダー研修参加者には、技術や知識の習得状況、研修内容毎のサロンでの活用状況などについて5段階評定尺度法を用いた。また、全ボランティアへの質問として、①サロンでのボランティアを決めたときの自信、サロン開始後の②参加者とのコミュニケーション、③サロン当日のプログラム、④プログラム立案、⑤プログラム展開、⑥サロンでの役割、⑦今後の活動自信について、5段階評定尺度法にて自己評価を依頼した。また、今後研修会で行ってほしい内容について複数多肢選択法を用いた。統計的分析には χ^2 検定を用い5%未満を有意水準とした。

本調査は、星城大学研究倫理審査委員会の承認を受け、武豊町との間で定めた個人情報取扱い事項を遵守したものである。

C. 結果

リーダー研修修了3ヵ月後のアンケート結果を表2と3に示した。研修内容はボランティアの評価としてはサロン運営の一助となっていた。講義と演習内容は、共にボランティアとしてサロンでの活動には「活かされている」という自己評価結果であった。

ボランティアがサロンでボランティアとし

て活動しようと決めた時の自信では、研修会参加の有無に関係なく自信なかったと回答した者が多かった。サロン開始後では、2群間において、以下の項目で研修参加群の割合が非参加群に比べて有意に高かった。参加者とのコミュニケーション、プログラムの計画、プログラムの展開それぞれに自信がついた。一方、今後ボランティアを継続していく自信については、研修参加群の割合が多かったが有意な差は認められなかった。

今後行って欲しい研修内容の上位3項目は、研修参加者では、レクリエーションの技法75%、町外サロンの見学50%、高齢者理解と援助法とコミュニケーション技法がそれぞれ45.8%だった。研修非参加者では、高齢者理解と援助法55%、町外サロン見学45%、コミュニケーション技法とプログラム立案が各35%であった。

表2 アンケート結果

a) 研修会終了後、ボランティアとしてやっていく自信は高まりましたか。 回答 n = 24

	とても高まった	高まった	どちらでもない	どちらかといえば高まってない	まったく高まってない
回答数	3	12	8	1	0

b) 研修会によりボランティアとしてやっていく技術や知識は得られましたか。回答 n = 24

	とても得られた	得られた	どちらでもない	どちらかといえば得られてない	まったく得られてない
回答数	1	17	6	0	0

c) 研修毎の「憩いのサロン」での活用状況 回答 n = 24

研修回数	とても活かされている	活かされている	どちらでもない	あまり活かされていない	活かされていない	参加していない
1回目	2	13	7	0	0	1
2回目	3	15	4	0	0	1
3回目	5	10	6	0	0	1
4回目	5	12	5	0	0	1
5回目	3	12	4	0	0	2

d) サロンでの活動状況について 回答 n = 23

	研修参加群		研修非参加群		p 値
	n = 23	%	n = 20	%	
ボランティア開始前の自信					
自信あった	8	34.8	5	25.0	0.486
なかった	15	65.2	15	75.0	
参加者コミュニケーション					
自信ついた	20	87.0	10	50.0	0.008
ついてない	3	13.0	10	50.0	
プログラム流れ理解					
理解している	18	78.9	11	61.1	0.231
していない	5	21.1	7	38.9	
プログラムを計画すること					
自信ついた	10	43.5	3	15.0	0.043
ついてない	13	56.5	17	85.0	
プログラムの展開					
自信ついた	9	40.9	2	10.5	0.029
ついてない	13	59.1	17	89.5	
サロンでの自己役割					
満足している	20	87.0	9	45.0	0.003
していない	3	13.0	11	55.0	
今後ボランティア継続自信					
自信あり	15	65.2	10	50.0	0.313
なし	8	34.8	10	50.0	

表3 今後研修会で行って欲しい内容

	研修参加者 n = 24	%	研修非参加者 n = 20	%	合計 n = 44	%
レクリエーションの技法	18	75.0	6	30.0	24	55.8
ミーティングの技法	10	41.7	6	30.0	16	36.3
高齢者理解と援助法	11	45.8	11	55.0	22	50.0
コミュニケーションの技法	11	45.8	7	35.0	18	40.1
プログラムの立案	10	41.7	7	35.0	17	38.6
プログラムの展開	8	33.3	3	15.0	11	25.0
サロンの管理・運営	6	25.0	4	20.0	10	22.7
救急法	6	25.0	4	20.0	10	22.7
町外サロンの見学	12	50.0	9	45.0	21	47.7

D. 結論

サロン開始後においてボランティアリーダー研修参加者群が研修非参加者群に比べて、参加者とのコミュニケーションとプログラム立案、プログラム展開についてそれぞれで自信がついたと自己評価している者の割合が高かった。一方、ボランティアとしての今後の継続自信では2群間での差はなく、研修に加えて行政や研究者らの支援体制が今後も必要と考えられた。

E. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

総括報告書に関連研究を含め一括掲載

「憩いのサロン」ボランティアの皆さまへ

調査ご協力をお願い

ボランティアの皆さまには、いつも「憩いのサロン」でご活躍いただきありがとうございます。

本調査の目的は、「憩いのサロン」のボランティアの方々がこれまでの活動において、自信となったことや不安（困難）を感じておられる項目を知ることです。そして、今後の「憩いのサロン」の運営や研修会の企画などの参考にさせていただきます。

どのような場合においても、データは集計して用いるため、本調査にご協力いただいた皆さま個人のお名前やご回答が、特定されることは決してありません。また、データの処理につきましては、星城大学と日本福祉大学の関係者が責任をもって担当し、データの取り扱いには細心の注意を払います。

ご多忙とは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただきご協力をよろしくお願いいたします。

【実施主体】

武豊町

本調査に対するお問い合わせは、以下までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

星城大学リハビリテーション学部 竹田徳則 052 - 601 - 6000

あなたの参加している主な「サロン」はどちらですか。あてはまるもの一つに〇をつけてください。

1. 大足サロン 2. 上ヶサロン 3. 玉貫サロン

あなたのお名前を教えてください。

【問 1】全員の方：「憩いのサロン」でボランティアとして活動しようと決めたときには、ボランティアとしてやっていく自信はありましたか。あてはまる番号一つに〇をつけてください。

1. とても自信があった 2. 自信があった 3. どちらでもない
4. どちらかといえば自信がなかった 5. まったく自信がなかった

【問2】全員の方：これまでの「憩いのサロン」での活動についておうかがいします。あてはまる番号一つに〇をつけてください。

1) 参加者とのコミュニケーションについて

1. とても自信がついた 2. 自信がついた 3. どちらでもない
4. どちらかといえば自信がついていない 5. まったく自信がついていない

2) 当日の「憩いのサロン」のプログラムの流れ（展開）について

1. よく分かっている 2. 分かっている 3. どちらでもない
4. どちらかといえば分かっている 5. まったく分かっている

3) 「憩いのサロン」のプログラムを計画することについて

1. とても自信がついた 2. 自信がついた 3. どちらでもない
4. どちらかといえば自信がついていない 5. まったく自信がついていない

4) 「憩いのサロン」のプログラムを展開することについて（司会者や進行係）

1. とても自信がついた 2. 自信がついた 3. どちらでもない
4. どちらかといえば自信がついていない 5. まったく自信がついていない

5) あなたのサロンでの役割について

1. とても満足している 2. 満足している 3. どちらでもない
4. どちらかといえば満足していない 5. まったく満足していない

6) あなたは今後、「憩いのサロン」でボランティア活動を続けていく自信はありますか。

1. とても自信がある 2. 自信がある 3. どちらでもない
4. どちらかといえば自信がない 5. まったく自信がない

【問3】 全員の方：今後研修会で行ってほしい内容はありますか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. レクリエーションの技法 2. コミュニケーションの技法（視聴覚低下の参加者への対応含む）
3. 高齢者理解と援助法 4. プログラムの立案 5. プログラムの展開 6. ミーティングの技法
7. サロンの管理・運営法 8. 救急法 9. 武豊町以外のサロン見学 10. その他（ ）

これ以降はボランティアリーダー研修に参加された方のみお答えください。

【問4】 ボランティアリーダー研修参加後のあなたの状況についておうかがいします。

あてはまる番号一つに○をつけてください。

1) 研修会参加後ボランティアとしてやっていく自信は高まりましたか。

1. とても高まった 2. 高まった 3. どちらでもない
4. どちらかといえば高まっていない 5. まったく高まっていない

2) 研修会参加によりボランティアとしてやっていくための技術や知識は得られましたか。

1. とても得られた 2. 得られた 3. どちらでもない
4. どちらかといえば得られていない 5. まったく得られていない

【問5】研修会各回の内容は、「憩いのサロン」活動に活かされていますか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

1) 1回目. 高齢者の心身の変化・リーダーに求められるもの (竹田講義)

1. とても活かされている 2. 活かされている 3. どちらでもない 4. 活かされていない
5. まったく活かされていない 6. 1回目は参加していない

2) 2回目. サロンにおける集団の活用と対人交流の促進について (太田講義)

1. とても活かされている 2. 活かされている 3. どちらでもない 4. 活かされていない
5. まったく活かされていない 6. 2回目は参加していない

3) 3回目. サロンにおける集団の活用と対人交流の促進について (太田演習)

1. とても活かされている 2. 活かされている 3. どちらでもない 4. 活かされていない
5. まったく活かされていない 6. 3回目は参加していない

4) 4回目. サロンにおけるプログラム立案と展開について (竹田講義)

1. とても活かされている 2. 活かされている 3. どちらでもない 4. 活かされていない
5. まったく活かされていない 6. 4回目は参加していない

5) 5回目. プログラムの展開例 (竹田演習) 大足サロン会場

1. とても活かされている 2. 活かされている 3. どちらでもない 4. 活かされていない
5. まったく活かされていない 6. 5回目は参加していない

ご協力ありがとうございました

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

竹田徳則: 認知症の介護予防. 作業療法ジャーナル. 印刷中

IV. 研究成果の刊行物・別冊